

第2世代交付金実施計画【神楽と花田植を活用した活力創出プロジェクト】

1. 交付対象事業の名称等

単独	神楽と花田植を活用した活力創出プロジェクト
----	-----------------------

2. 交付対象事業の背景・概要

A. 地方創生として目指す将来像（交付対象事業の背景）

北広島町は、中国地方の中山間地区に位置し、豊かな自然環境と地域に根差した伝統文化を大切に継承してきた町であり、長期総合計画の将来像として掲げる「新たな感動・活力を創る北広島～人がつながり、チカラあふれるまち～」をこのスローガンに掲げ、交流を生み出す魅力づくりと観光振興による住民一人ひとりが「住みがい、住んで良かった、住み続けたい」と満足感と幸福感を実感できる、活気あふれるまちづくり、持続可能なまちづくりの実現を目指している。しかしながら、近年、人口減少が進み、年齢構成が大きく変化しており、2020年の17,763人から2045年には13,000人を割り込むと予測され、過去30年間で総人口の約4,000人減少、65歳以上の高齢者割合も37.3%に上昇している。その対策として令和6年12月に策定した「第3期北広島町総合戦略」において、企業版ふるさと納税制度などの活用により「地域の外から稼ぐ力」を高め、結婚・出産・子育ての希望がかなえられるまちづくりを進めて出生率の改善を図るとともに、「関係人口の創出・拡大によるさらなる定住促進を図ることで、近年マイナズに転じている社会動態をプラスに変えることで、2040年に14,981人、2060年に12,470人という将来展望を「関係人口」として定めた。この「関係人口」を実現するため、国の政策パッケージ「新しいひとの流れをつくる」を参考に、地方版総合戦略である第3期北広島町総合戦略では目指すべき将来の方向として「関係人口の創出・拡大による都市部とのつながり強化」を掲げ基本目標2「キタを体感する交流、定住と次世代を担うまちづくりの推進」を北広島町が持続可能な地域社会を形成するために、外部からの「関係人口」を増やし、これを「定住人口」へと結びつける多角的な戦略として位置づけている。この基本目標2を推進する「ひとを呼び込む魅力」発信」を施策の方向として定め、町の出身者や町外からの通勤者や、これまで関わりがなかった人に対して、町への転入を考えるきっかけを提供するため、観光プロモーションによる町の知名度向上やイメージアップや自然を活用したイベント推進、町内のスポーツ施設等を活用したスポーツ大会の開催やスポーツツーリズムの創出とともに重要な観光資源として本町の誇る伝統芸能（「神楽」やユネスコ無形文化遺産「壬生の花田植」）を活用することで、交流を促進し地域・経済の活性化を図り「移住・定住」につなげる仕組みづくりを行う。

B. 地方創生の実現における構造的な課題

北広島町が直面している課題は深刻な人口減少と高齢化で、特に、この30年間で総人口が約22%（5,000人）減少しており、高齢化率は16.1%上昇し39.6%と急速な人口減少と高齢化が進行し、2020年の17,763人から2045年には13,000人を割り込むと予測されている。この人口減少は、経済規模の縮小やサービス水準の低下を招き、地域コミュニティの維持困難、地域経済への影響、教育・文化の伝承、公共施設の維持管理・更新といった課題が懸念されており、また、北広島町の社会動向（転入者と転出者の差）がマイナズに転じていることも大きな課題である。また、第3次北広島町観光振興まちづくり計画では観光消費額を2026年度に27.9億円、観光入込客数を2026年度に174万人とすることを目標としているが、直近である2024年の入込観光客は163万人、観光消費額は20.43億円（※いずれも速報値）となっており、伸び悩んでいる。人口減少は観光業における人材不足にも大きく影響しており、国内の訪日外国人数、観光消費額が過去最高を更新し、広島県内の外国人宿泊者数は2019年が132万人、2024年が197万人と、約1.5倍に伸びており、広島市中心部から近い立地にも関わらず、北広島町泊泊者数はほとんど見られず、教育旅行として年間数件の団体客が来ているものの、インバウンド受入対応の遅れや観光客誘致の仕組みが未構築となっている点も課題である。これらに対処できなかった要因として、現在、町には観光振興に一体的に取り組む組織が存在せず、行政を含む各事業者や関係者が個別・単発的に事業を実施している状況が続いている。その結果として、観光振興事業における全体の目標や対応すべき課題が明確に整理されておらず、さらに中長期的な視点に立った計画的な取り組みが行われていないことが考えられる。このような課題に対処するため、第3期北広島町総合戦略では、伝統文化を通じた交流人口の拡大を図り、北広島町は独自の魅力と地域資源を最大限に活かす、積極的に「新しいひとの流れをつくる」ことに注力した総合戦略における基本目標2「キタを体感する交流、定住と次世代を担うまちづくりの推進」の取り組みとして、中国地方最大の都市である広島市に隣接し、高速道路のICに位置する道の駅舞踊ロードIC千代田を町の観光の玄関口として、伝統芸能「神楽」と「花田植」を活用した新たなツーリズムの創出を通じて交流を広げ、地域全体の活性化につなげる。神楽と花田植は、いずれも、豊作や安全を祈願し、収穫に感謝を捧げる稲作文化から生まれた伝統文化であり、現在も北広島町が誇る伝統芸能として町全体に広く根付いており、地域住民同士の世代を超えた交流による地域コミュニティの絆を深める役割など、町民にとって地域のアイデンティティそのものとなっており、また、神楽をしたいという理由で町外に住所を持つ団員が北広島町に移住する例も多く見られる。また、広島市内では、神楽公演を目当てに訪れるインバウンド観光客も増加しており、神楽と花田植は、地域の活性化と観光振興の両面での大きなポテンシャルを生かしていきたいと考えている。

【神楽・花田植について】

北広島町は、古くから稲作文化と深く結びついた歴史と風土を有する地域である。中世の頃、北広島町の一部は宮島・厳島神社の荘園であり、空海（弘法大師）ゆかりの大聖院が祭祀を執行行っていた。現在でも、北広島町大朝地域では白米のほかに赤米や黒米といった古代米も栽培され宮島の大型院・地元農家や小売店が協力しながら種まきから稲刈りに取り組んでいる。こうした稲作文化に根ざした精神と行事は、北広島町の二つの代表的な伝統芸能、「神楽」と「花田植」に色濃く反映されており、神楽は、秋の実りへの感謝を込めて神に奉納される舞であり、神話や伝説を題材にした神楽舞で、北広島町では60以上の神楽団が活動しており、神楽団数は全国最多と言われている。一方、「花田植」もまた稲作文化に由来し、田植え作業の中で田の神を祭ると同時に、農民の慰安や娯楽として発展してきた行事である。囃子に合わせ、豪華に飾られた花鞍の牛が登場し、色鮮やかな装束を身にまとった早乙女たちが苗を植える光景は圧巻であり、2011年にはユネスコ無形文化遺産にも登録され、毎年6月の第1日曜日は町内最大級のイベントである壬生の旗田植が行われる。このように、神楽も花田植もいずれも稲作文化から起るものであり、北広島町の農村風景や信仰、暮らしの営みの中から生まれ、今なお地域の誇りとして受け継がれている。これらの文化は、単なる伝統芸能ではなく、地域の歴史・信仰・産業と密接に結びついた「生きた文化」として、次世代への継承と観光資源としての活用が期待されている。ちなみに北広島町のイメージキャラクター「花田舞太郎」は花田植に登場する飾り牛をモチーフにしており、舞太郎の「舞」は神楽に由来している。

C. 交付対象事業の概要

【交付対象事業がどのように構造的な課題の解決に寄与するのか】

町の伝統芸能である神楽・花田植を観光振興の活用したと捉えているが、現在、神楽については、担い手となる神楽団員不足が深刻で、2013年には72団体あった神楽も現在64団体に減少しており、町内で最も規模の大きい芸石神楽共演大会については最盛期の1995年には観客数が2000人を超えていたが、2025年は370人ととまるとなるなど、他の神楽大会も中止が相次ぎ、伝統芸能を披露の場が減少し、そのことが担い手不足に拍車をかける悪循環となっている。また、町を代表するもう一つの伝統芸能、花田植に関しては、壬生の花田植が2011年にユネスコ無形文化遺産にも登録されたことを契機として注目を集め、2012年には15,000人の来場者があったが、2025年は来場者数も6,000人に減少している。これらを解決するため、目的や課題の整理を行うために神楽振興計画を策定し、それに基づき情報発信プラットフォームの構築とSNSやデジタルツールを活用した情報発信の強化を行う。また、観光拠点となる道の駅での外国人観光客向けの体験ツアーの商品となりえるプロダクト開発および受入施設としての機能向上整備については、初年度において、町内に点在する温泉宿泊施設や既存の観光関連施設等を効果的に組み合わせ、神楽や花田植などの伝統芸能を核とした体験・滞在型ツアーの達成に向けた準備・開発に重点的に取り組む。2年目・3年目は、初年度に得られた成果や課題をもとにプラットフォームを行い、段階的に展開・実施することで、3年間で事業完了を目指す。また個人旅行者が高速できるようコースや体験・滞在プランの達成するために、課題となる2次交通の選択肢としてレンタルサイクルやカーシェアなどの導入を検討し、北広島町が気軽に訪問できる魅力的な場所としての認知度向上に取り組み、併せて大都市における神楽公演や海外プロモーションを実施する。なお、観光業の人材不足を解消し、伝統芸能の担い手となる若者を町内・町外を問わず積極的に本事業に関与させる仕組みを作り、北広島町の継続的なつながりを構築する。

<ソフト事業>

1. 神楽振興計画の策定【町の伝統芸能である神楽・花田植を観光振興の柱と位置づけ、目的と課題を整理するために「神楽振興計画」を策定する。これにより地域資源の価値を明確にし、体系的な取組を推進する基盤を整備する。
2. デジタル情報発信の強化【SNSやホームページなどのデジタルツールを活用し、観光情報の発信を強化。また、インバウンドにも対応した情報発信プラットフォームを構築し、広範囲認知獲得を目指す。
3. 観光客向け体験ツアー開発【神楽鑑賞や花田植などを組み込んだ体験型ツアーを商品化し、インバウンドを含め、観光目的地としての町の魅力を高める。
4. 都市部でのプロモーション展開【神楽の魅力を広げるため、大都市圏での神楽公演や観光PRイベントを実施。イベントを通じて、町の伝統芸能を体験できる場を提供し、誘客促進につなげる。
5. 若者の関与【将来の神楽や花田植の担い手となる若者を町内から積極的に巻き込む仕組みを構築。体験・学習・参加の機会を設け、都市部の若者と町との継続的な関係人口の増加を目指す。
6. 海外公演の実施と国際的な発信強化【神楽や花田植を海外の文化イベントや日本関連フェスティバルで上演し、町の伝統文化の魅力や世界に直接発信する。海外公演により、国際的な関心の喚起や文化的評価の向上を図る。

<拠点整備事業>

【道の駅の受入機能向上整備】

道の駅舞踊ロードIC千代田は、もとも神楽公演を想定したステージ付きレストランを備えており、北広島町の伝統芸能である神楽を観光資源として活用することを見据えた施設であった。しかしながら、これまでの運用においては、空調設備が不十分であり、神楽公演時のイス・机などの観客席転換作業の難しさ、来場者への伝統芸能の解説が十分に行えないといった課題があり、伝統芸能を鑑賞・体験できる施設としての機能が十分に発揮されてこなかった。今回の施設改修により、空調設備の更新によって館内環境を快適に保ちつつ、多目的に活用できる「アウト」備品の整備や、デジタルサイネージの導入による多言語での項目説明・観光案内が可能となり、初めて鑑賞する観光客やインバウンド観光客に対しては分かりやすく伝統文化の魅力を伝えられる環境の充実を図る。

・施設名称：道の駅舞踊ロードIC千代田

所在地：〒731-1533 広島県山県郡北広島町有田1122

敷地面積：19,000平方メートル

施設面積：3,892平方メートル

運営主体：株式会社きたひろ市場（北広島町が設置し、指定管理者制度により「株式会社きたひろ市場」が運営）※観光案内・バス関係は観光協会

施設の機能：道の駅舞踊ロードIC千代田は、中国自動車道千代田ICに隣接・EV充電施設・無線LAN接続サービス・芝生広場・産直きたひろ市場（農産物、加工品、手工芸品など、町内産品等を販売）・レストラン「響」・バスターミナル機能（路線バスや高速バスが発着する「バスの駅」として、公共交通の拠点）防災拠点機能・情報発信機能・観光案内所・交通情報（高速バス、路線バスの発着情報など）・各種バスのチケット販売

3. 交付対象事業の重要業績評価指標 (KPI)

★KPI① (事業・施策の全体効果を示す 必須KPIを設定すること)	観光消費額増	単位	億円							
KPI②	伝統芸能ツアー参加者数	単位	人							
KPI③	高校生・大学生の観光ボランティア参加数	単位	人							
KPI④	神楽団数	単位	団体							
KPI⑤	伝統芸能ホームページアクセス数	単位	ビュー							
KPI⑥	町内主要神楽大会の来場者数	単位	人							
設定したKPIが複数年わたって費用対効果を計測するのに適している理由・計測手法・目標値の根拠	1. 観光消費額増 理由: 事業によって地域経済への直接的な波及効果を定量的に把握できるため、費用対効果の中心的な指標。 計測手法: 観光統計。 目標値根拠: 2023年度の町の観光消費額を基準とし、毎年10%程度の増加を目指す。									
	2. 伝統芸能ツアー参加者数 理由: 神楽・花田植を観光コンテンツ化する本事業の直接的な成果を示す定量指標。 計測手法: 体験プログラム予約数・受付記録による集計。 目標値根拠: 初年度は年間100人を目標とし、施設整備・プロモーション効果の浸透により3年目で200名を目指す。									
	3. 高校生・大学生の観光ボランティア参加数 理由: 地方創生人材の確保・育成のため若者の主体的な参画が地域の持続可能性・文化継承に不可欠であり、「担い手の育成」の成果指標。 計測手法: 地域内外の学生の参加実績。 目標値根拠: 初年度は延べ30人、SNS・プログラム強化により翌年度50人以上、最終年は60人以上を目指す。									
	4. 神楽団数 理由: まちの賑わいの創出のため文化継承の体制整備と地域住民による担い手活動の活性化を反映。長期的には地域のアイデンティティに直結。 計測手法: 町内の神楽団登録数・活動状況を調査。 目標値根拠: 現在の団体数(64団体)を維持しつつ、休止団体の再活動や新団員募集支援により3年間で3団体の増加を目指す。									
	5. 伝統芸能ホームページアクセス数 理由: 情報発信力の強化の成果を定量的に示す指標。 計測手法: Google Analytics等によるページビュー、訪問者数、滞在時間、直帰率の定点観測。 目標値根拠: 開設初年度は1,000PVとし、SNS連動・インバウンドを想定した発信等により3年目に10,000PVを目指す。									
	6. 町内主要神楽大会の来場者数 理由: 地域の活性化と観光振興のため町の看板イベントの来場者数により神楽ファン化の進行度合いを測定。 計測手法: 主催者による入場者数をカウント。 目標値根拠: 施設整備・イベント・プロモーションとの連動で3年目に旧4地域で100名増・その他主要大会で200名増を目指す。									
	事業開始前 (現時点)	2025年度 増加分	2026年度 増加分	2027年度 増加分						KPI増加分の累計
KPI①	20.43	2.04	2.24	2.47						6.75
KPI②	0.00	100.00	50.00	50.00						200.00
KPI③	0.00	30.00	20.00	10.00						60.00
KPI④	64.00	1.00	1.00	1.00						3.00
KPI⑤	0.00	2,000.00	4,000.00	4,000.00						10,000.00
KPI⑥	2,590.00	100.00	200.00	400.00						700.00

4. 自立性

取組内容
(事業を進めていく中で、事業推進主体が自立していくことにより、将来的に本交付金に頼らずに、事業として継続していくことが可能となる事業であること。)

伝統芸能(神楽・花田植)の効果的なプロモーションを、舞ロードIC千代田を中心に継続的に実施することにより、観光客誘致を促進し、地域内の消費拡大、関連産業の活性化に繋げ、開発した体験ツアー等の新たなコンテンツが観光需要を喚起し、収益性を高める。また、若者との関わりを創出することにより、伝統芸能の担い手となる可能性も高まり、継続的に関わることで、交流人口・関係人口の増加、地域イメージの向上、町民の誇りと愛着の醸成にも貢献し、持続可能な地域づくりを推進する。本事業を「まちづくり会社はなえーる」および「北広島町観光協会」の業務を整理・統合し、新たに設立する観光振興組織を中心に、舞ロードIC千代田を拠点として関連グッズやツアーの販売などを含む地域の「稼ぐ力」の向上を担う主要事業として位置づけ、戦略的・継続的な展開を図る。こうした事業展開により、4年目には交付金に依存しない自立した地域社会の実現を目指すことが可能である。

自主財源の種類		自主財源の内容				
【A】	体験ツアー参加費	神楽・花田植体験、衣装体験などの参加費				
【B】	飲食	神楽ディナーショー開催による収入				
【C】	関連グッズ販売	神楽面、衣装、花田植え笠などの関連グッズ販売収入				
【D】	寄付金	企業版ふるさと納税				
【E】						
各年度における 自主財源見込額	事業開始前 (現時点)	2025年度 (1年目)	2026年度 (2年目)	2027年度 (3年目)	2028年度 (4年目)	
【A】	0千円	600千円	800千円	1,000千円	1,200千円	
【B】	0千円	500千円	600千円	700千円	800千円	
【C】	0千円	500千円	600千円	700千円	800千円	
【D】	0千円	10,000千円	10,000千円	10,000千円	10,000千円	
【E】						
合計	0千円	11,600千円	12,000千円	12,400千円	12,800千円	
交付対象事業経費		43,000千円	100,817千円	32,508千円	0千円	
うちソフト事業費		43,000千円	27,761千円	26,166千円	0千円	
うち拠点整備事業費			73,056千円	6,343千円	0千円	
総事業費	0千円	33,100千円	62,409千円	28,655千円	12,800千円	

5. 地域の多様な主体の参画

区分	主体名	主な役割、意見及び改善方策への反映
産	指定管理者	【役割】収益性の高い神楽公演やイベント等を開催してもらう。 【意見・改善方策】定例事業報告会において、新たな取り組みの改善点を明確化し、事業内容への反映に取り組みとともに、細かなオペレーションの見直しや、DXを活用したチケット予約・受付業務の簡略化を図る。また、新たな取組の進捗状況を定期的に共有し、PDCAサイクルを回す体制を整備する。加えて、来場者アンケートやデジタルツール等を活用し、顧客満足度を可視化・把握することで、事業の質的向上を図る。
官	北広島町・北広島町教育委員会	【役割】各事業の全体調整を行う。 【意見・改善方策】本事業の取組みを推進するため、事業者間のマッチングを進めたい。関係者で会議体を組成し、地域内での連携を促進する。
学	広島県立千代田高等学校・広島県立加計高等学校芸北分校・広島工業大学・広島修道大学・広島大学	【役割】共同で伝統芸能のプロモーションに取り組む。 【意見・改善方策】詳細な進捗状況の管理を通して、高校生・大学生のアイデアを活かし、積極的な参加を促す。SNSを活用した動画コンテンツの制作、神楽団との交流や実際に花田植のイベントに関わることで、海外向けに英語字幕付きの紹介動画の制作など、若者ならではの感性とスキルを生かした具体的な活動に結び付ける。また、町内外の学生同士が協働する機会を設けることで、若者間の交流を深め、地域の伝統文化への共感と理解を広げるとともに、継続的なネットワークづくりにつなげる。活動成果についても共有し、主体的な改善と次の企画への動機づけと北広島町との関わりを持続させる。
金		
労		
言	中国新聞社・地元テレビ局	【役割】事業に関する情報を提供してもらう。 【意見・改善方策】関連事例についてタイムリーな情報提供を求める。
住民全般	NPO神楽芸術研究所・北広島町神楽協議会・壬生の花田植保存会	【役割】計画策定・各団体の意見収集、情報提供。 【意見・改善方法】活用に関する意見についての、事業内容への反映に取り組む。

6. 交付対象事業の効果検証及び事業内容の見直しの方法、時期及び体制

検証時期	毎年度 4 月
検証方法	関係者間の協議やワークショップを通じて、多角的な視点から評価を行う。
参画者	指定管理者・北広島町・広島県立千代田高等学校・広島県立加計高等学校芸北分校・広島工業大学・広島修道大学・広島大学・NPO神楽芸術研究所・北広島町神楽協議会・花田植保存会
検証結果の公表の方法	町ホームページ